

SSKU

CIL ひの通信

No.65

編集：特定非営利活動法人 自立生活センター日野

〒191-0031 東京都日野市高幡 2-9 ウィステリアガーデン 1F

e-mail cilhino@view.ocn.ne.jp

TEL：042-594-7401

発行所：障害者団体定期刊行物協会（定価百円）

FAX：042-594-7402

東京都世田谷区祖師谷 3-1-17 ヴェルドゥーラ祖師谷 102 号室

TEL：03-6277-9611

2024年 お餅つき



2024年1月5日に、4年ぶりとなる餅つきを事務所にて開催いたしました！

職員は総出でお餅を蒸し、杵でつき、そして丸めたりしてお餅屋さんのように動き回りました。

今回は、つきたてのお餅を入れたお雑煮、お汁粉の他に、豚汁も作りました。

当日は日野の利用者さん、職員の家族、関係者の皆さんなど全部で50名ほど集まり、とても賑やかな日となりました。お集まりくださった皆さまありがとうございました！

コロナで中止が続いておりましたが、また日野の恒例行事として毎年開催できれば良いなと思っています。

今年参加されなかった方も来年是非いらしてください。

(記：中井)

障害者保健福祉ひの6か年プランが策定されました

令和5年度に日野市障害者計画等策定委員会が全5回開催され、『障害者計画』『第7期日野市障害福祉計画』及び『第3期日野市障害児福祉計画』の3つの障害者福祉施策を推進する計画が策定されました。それぞれの計画期間は、障害者計画が令和6年度から令和11年度の6か年、障害者総合支援法に基づき策定された第7期日野市障害福祉計画、及び第3期日野市障害児福祉計画は令和6年度から令和8年度の3か年となっています。

障害者計画の目指すべき姿は、

「ともに生きるまち日野」

～一人ひとりがかけがえのない存在として認め合いながら安心して暮らせる地域の実現～

障害者に対する理解を深め尊重しあう社会

地域で暮らす誰もが互いに尊重し認め合える環境を整えます。

誰もが安心して自分らしく暮らせる社会

誰もが自らの生活のあり方を選択し、行動ができ、安心感と自己肯定感を持って暮らすことのできる「共生社会」の実現を目指します。

この実現すべき社会に向けた11の施策の方向性と、それに関連する施策が24立てられ、なかでも次の7つが重点施策として位置付けられました。

- ・障害を理由とする差別の解消の推進
- ・情報アクセシビリティの向上に向けて検討して取り組む
- ・インクルーシブ教育の推進
- ・相談支援の充実
- ・福祉人材の確保と定着、育成
- ・地域生活移行等への支援
- ・医療的ケア児等への支援体制を整える

24の施策には85事業(重複あり)が組まれています。この計画が計画倒れに終わらないように市や他の事業所と連携しながら、実現に向けて活動していきたいと思っています。

(記：秋山)

ゆうでい じょうしゃうんどう UDタクシー 乗車運動

2023年10月20日、全国UD（ユニバーサルデザイン）タクシー乗車運動に合わせて、車椅子ユーザーとして、UDタクシーを利用する際の現状を体験しました。日野市では駅のロータリーや流しのUDタクシーを狙って乗車するのは難しいので、今回は八王子市・日野市に配車をしている京王タクシーに事前予約をしました。その対応は丁寧で、迎えに来た運転手の手際と態度に好印象を持ったというのが率直な感想です。

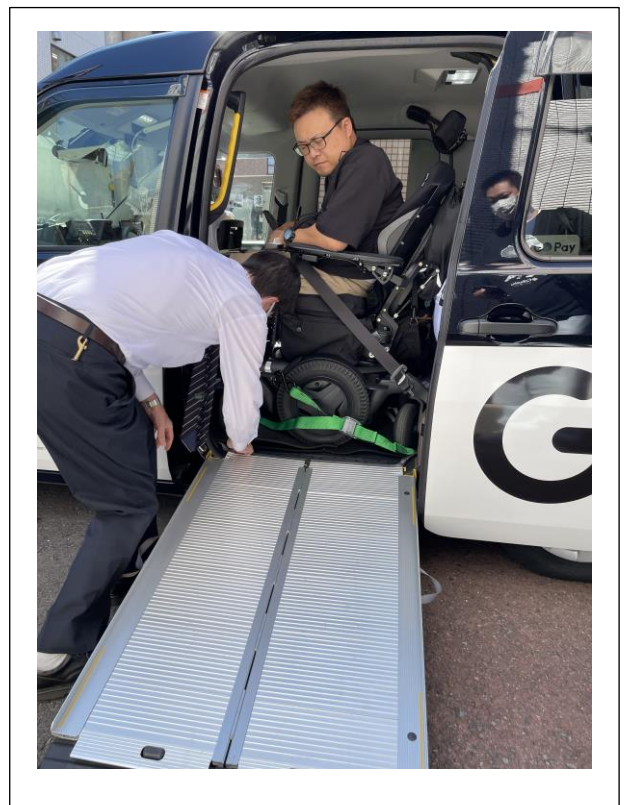
しかし、全国的に、UDタクシーを利用する際に乗車拒否や運転手の不慣れな対応が問題視されています。

実際乗ってみると車内は狭かったものの、大型の電動車椅子でも利用可能でした。しかし、運転手の方がおっしゃっていましたが、「安全にスロープを出せる場所がなかなか見つからなくて、どこで降りてもらったらいいか、いつも苦勞する」という課題があるとのこと。このような現状から、UDタクシー利用のさらなる普及と安全に乗降できるスペースの整備が求められます。

車椅子ユーザーにとって、便利な移動手段であるUDタクシー。その利便性を高めるためには、運転手のサポート力の向上や利用者の声を反映したサービスの拡充が欠かせません。私は今後もUDタクシーを利用したいと感じましたが、東京の一部の地域だけが親切、丁寧で使いやすいではなく、全国どこでも安心、

安全に利用できるよう車椅子ユーザーのリアルな声を取り入れた改善が必要だと感じました。将来、スマホアプリで配車を依頼できるようになることを期待しています。

(記：藤田)



『市制施行60周年記念式典に参列してきました』

2023年11月3日(金)ひの煉瓦ホール(市民会館)大ホールにて、『日野市市制施行60周年記念式典』が開催され、参列してきました。式典には、日野市がまだ日野町であった頃から交流があり、市制施行された1963年当初から姉妹都市となったカリフォルニア州レッドランズ市のエディ・テヘダ市長など多くの来賓が招待されていました。また、市に貢献された方々の功績をたたえる表彰式の開催や、記念映像の放映、光バンドの演奏などが行われ、参列者には日野市市制60周年記念誌が配られました。その記念誌は日野守という

漫画のキャラクターが登場し、日野市の歴史や現在の日野市のあれこれなどをわかりやすく紹介しています。(ちなみに、日野守のプロフィールは、60周年記念誌のナビゲーターとして日野市の魅力を紹介する、生まれも育ちも日野市の37歳。武家社会の最後を生きたらストサムライ「新選組」を愛し、誠の精神で地域の活動に積極的に参加中。暑苦しいほどの熱血漢ながら、優しい性格。)ご覧になりたい方は日野市のホームページ「市制施行60周年」からダウンロードすることができます。

(記：秋山)

日障連『イオンモール多摩平の森』見学会後 報告

CIL日野通信NO.64に掲載しました、イオンモール多摩平の森(以後、イオン)施設見学会のその後について報告します。見学会後、イオンをよく使う障害を持つ方々から色々な意見をいただき、それを日野市障害者関係団体連絡協議会(以後、日障連)がまとめた要望書を作成し、イオンへ提出しました。要望書の内容について、いくつか紹介したいと思います。

- ・視覚障害者の方々からはアテンドサービスや点字ブロック等について。
- ・聴覚障害者の方々からはインフォメーションカウンターに手話のできるスタッフの配置について。

- ・車椅子ユーザーとして大川が、登録制専用駐車場の利用について。更新手続きを1年単位で実施してほしいこと。利用できる制約を「身体障害者手帳を持っている方」ではなく、「身体障害者手帳を持っていて、更に車椅子ユーザーの方」だけが登録できるようにしてほしいこと。
- ・正面玄関前のタクシー乗り場で車椅子の乗り降りができるスペースや表示をしてほしいこと。
- ・障害の種別に限定されず様々な障害の方々から、個別店舗について、店舗内の通路に物を置かないようにし、通路自体を広くしていただけるように周知してほしいこと。

その要望書に対し、イオン側からの口頭回答が2023年11月13日(月)にありました。日障連から障害当事者、関係団体含め11名が参加しました。イオン側からはジェネラルマネージャー、営業マネージャーを含めた3名でした。

イオン側から「この先、時間はかかるが要望に沿えるよう実現していきたい。」との回答でした。日障連として早急の改善を要望したのですが、実施までには一定期間空くのが予想されます。それまでの経過措置についても障害当事者、関係団体と検討できるようにしていただく事や、話し合いには要望・意

見に対して権限のある担当者の方の出席を求め、事を伝えました。イオン側からは話し合い等の場にはジェネラルマネージャー、営業マネージャーが必ず出席する事を約束してくれました。

CIL日野通信NO.64のイオン施設見学会報告でも書きましたが、イオンのスタッフの方々が日障連側の意見や要望などを真剣に受け止めて回答をしてくださいました。まだまだ先にはなるとは思いますが、みんなで話し合い、誰もが利用しやすいように改善していただければと思っています。

(記：大川)

障害者週間イベント



12月3日(日)にイオンホールで障害者週間イベント「いっしょに～知る・理解を深める～」が開催されました。多くの来場者の皆さんと障害について考え、共に学び合う貴重な機会となりました。

午前中は障害当事者の福永さんと中野さんが登壇し、福祉教育ハートフルプロジェクト

トのデモ授業を行いました。今年度パートナー校である5校の4年生は1年間を通して多くの障害者の話を聞きます。その内容は障害のこと、障害者の生活こと、日々の困りごとや障害者に対する無意識に持っているイメージなど様々です。今回は実際に授業を受けた日野第7小学校の4年生3人の児童から動画にて授業の感想やメッセージをいただきました。子どもたちからは「精神障害は苦しい病気だとは知らずに気軽に話しかけてしまった。丁寧に話したほうが良かったと思った。」「精神障害の方は頑張ってって言われるのが辛い、声掛けの言葉に驚いた。」など、障害者本人から直接語られるリアルな内容に、子どもたちの興味が次第に掻き立てられ、「次はどんな人たちが来るのか」、「特

別支援学校にも行ってみたい」など新しいこと
とや人に対する関心が大きくなっている様子
がうかがえました。



午後には様々な体験イベントが企画され、
多くの子どもたちを含めた来場者の皆さんが
楽しみながら点字や手話、紙すき、ワークリ
ーンづくりやリングメモづくりなどを体験さ
れていました。また、別のブースでは、マッ

サージやボッチャ、ブラインドサッカー、車
いす体験なども来場者の列が途切れることも
なく大変大盛況でした。

今回のイベントを通して、障害者に対して
思い描いていた先入観が来場者の皆さんに
も少なからずあること、また、お互いの違い
を認め合うことがインクルーシブな社会を作
ることにつながっていることなど、新たな気
づきを得ることができたのではないかと思
います。日野市は障害者差別のない「ともに生
きるまち日野」を実現するために、様々なイ
ベントを企画しています。差別のない社会の
ためにそれぞれがどのように取り組んでいけ
ばよいのかを考え、自ら行動することの大
切さを感じる時間となりました。

(記：藤田)

「選挙時の合理的配慮」

2023年12月19日～21日の三日間JIL全国セ
ミナーが東京都立産業貿易センターで行わ
れました。会場だけでなくオンラインからで
も参加可能で多くの人が集まりました。登壇
した方々が語る話は、ここに書ききれないほ
ど一つ一つ内容が濃かったため、特に印象的
だった選挙時の合理的配慮についての話を取
り上げたいと思います。

ユースパワーネットワークが行ったアンケ
ートでは、選挙管理委員会は選挙時に障害者
への合理的配慮は出来ていると全員が回答し
ました。しかし、障害者側からは投票時の
支援に対して不足しているという声が全国的

にあります。

私事ではありますが私も母と姉と一緒に
市役所に投票に行った時、このギャップを感
じたことがあります。姉は軽度の知的障害者
です。文字を書くのは自分で出来るので
すが、新しい環境を把握する能力は弱く、投
票方法に戸惑うため母親が一緒に机を使っ
て票を書こうとしました。しかし、それはい
けないと役所の人に注意されました。姉の事
情を説明しても役所が用意した人しか介助出
来ないと、こちらの要望は断られました。た
だ役所側の人は姉にどのような介助が適切か
良く分かっていない様でした。「姉は知らな

ひとと一緒に行動することがとても難しく、急に来ると固まってしまうのですが、その姉の介助を十分にできるのでしょうか？」と念を押すと「十分に出来るかどうかは分かりません。けれど規則だから家族でも介助は認められない」と言われました。

選挙権は姉名義で届くのにはこれでは投票できない。選挙は誰にでもある国民の権利なのに知的の人の票は受け付けられなくても大差ないと思われている感じがしてとても悲しかったことを覚えています。その日は押し問答を繰り返して役所側が折れる形で投票は出来ました。

失礼な物言いになりますが役所が用意した介助者は障害者の介助に専門的な方ではありませんでした。障害に理解のない健常者が一人いたとしても十分な介助はできません。公明さを保つため選挙時に守るべき規律が生まれるのは理解できますが、いつも一緒にいる家族や介助者という必要な介助に精通している人を出禁にするならば、同じレベルの介助ができる人材を用意しておくのが誠実だと


おもいます。そして多種多様な障害を想定してそれらすべてに対応できる人材を全国に配置するのは現実的ではないので、障害者と普段から関わりがある家族や介助者が投票時にも一緒に行動できるよう便宜を図るあたりが求められるラインなのではないでしょうか。

登壇した方は全国的に挙げられている障害者の声をまとめ、これは合理的配慮ではないですよと問い合わせをし、選挙管理委員会側も改善していこうとしている渦中であることを話されていました。選挙管理委員会は障害者への配慮はしているという認識ですから意図的に差別しているわけではないけれど実際に必要な配慮を知らないが故にバリアを作り出している状態だと思います。これからはバリアが改善されて選挙時に疎外感を感じる人がなくなる事を願います。

他にも今回のセミナーでは、ハッとさせられるような問題提起が多くあり、とても考えさせられ、自分の知見を広げられる時間となりました。改めてこのような場に参加できて良かったです。

(記：西村)

かいじょしゃ ぼしゅう
介助者を募集しています



かいじょ きょうみ かつ
介助に興味のある方・やってみたくらいの方がお近くにいたら、紹介してください。

どうじ うんでんきょうりょくしゃ ぼしゅう
同時に運転協力者も募集しています。運転歴が3年以上の方で運転が好きな方がいましたら、是非ご連絡下さい。

2023年度 ピア・カウンセリング オンライン長期講座 報告

2023年9月1日から11月24日の毎週金曜日、全12回にわたり、ヒューマンケア協会・自立生活センター日野・ILみなみTama、共催で「ピア・カウンセリング オンライン長期講座」を開催し、無事に終了することができました。

コロナウイルス感染症もだいぶ落ち着き、外出時のマスク着用が自由になったのですが、対面での講座は、まだ避けたほうが良いと判断し、昨年の集中講座同様にWEB会議

ツール「ZOOM」を使用したオンライン講座を開催いたしました。オンラインでの開催という事もあり、岩手、広島、宮城、千葉、神奈川、東京など遠くにお住まいの方々も気軽に参加して下さいました。

全12回、3か月という長い講座でしたが、ピア・カウンセリングを通して、参加者の方々とピアという関係を作る事が出来たと思っています。

(記：大川)

京王線多摩動物公園駅の無人化がもたらす障害者の不安

多摩動物公園駅が無人化されてから数ヶ月が経過し、障害者の皆さんから不安を感じる声が挙がっています。今までは駅係員が案内してくれたり、サポートをしてきましたが、無人化になってからそのサポートが少なくなりました。新しい案内やサービスはありますが、まだ使い方が分かりにくいと感じている人が多いのが現実です。

現在、肢体障害者や視覚障害者、聴覚障害者に対する案内支援として、カメラ付きインターホンの導入や、インターホン位置を知らせる点字案内、低位置ディスプレイの増設など、障害特性に適した設備が設置され、高幡不動駅側のカメラ角や立ち位置の調整、自分のスマホを活用した「スマホでインターホンシステム」の導入、コミュニケーションボードの常設なども行われています。しかし、視覚障害者の皆さんからは案内の表示がどこにあるのかわからないですとか、ホームから

落ちたり、乗客同士のトラブルが増えないか心配しています。無人化で変わる新しいシステムや手続きにも、もっとわかりやすく案内してほしいという声もあります。

また、無人化による案内方法の変更も進んでいます。駅係員による巡回とサポートが行われていますが、具体的な頻度や時間はセキュリティの関係で非公開です。車椅子ユーザーの乗降についても、前日連絡や当日の駅係員によるサポートが行われますが、私たちが求めた車掌による乗降サポートはありません。さらに、ホーム柵の設置が未定であることが心配されています。視覚障害者にとって、人による案内以上に安心できるものはありません。私たちは、ホーム柵の設置などの安全対策が迅速に進められることを強く希望しています。

今後も障害者の利便性向上と安全確保に向けて、私たちは鉄道会社に対し、声を挙げ

ていくつもりです。京王電鉄株式会社には利用者の声を真剣に受け止め、誰もが安全で快適な利用ができるよう、駅の環境の改善を進めていってほしいと思いますし、それらによって多くの人々がにぎわい、活気ある駅に戻ることを強く願っています。

(記：藤田)



たこ焼きパーティをしました！

2024年2月10日(土) CIL日野事務所にて知的交流会のたこ焼きパーティを行いました。参加者は利用者さん、介助者さん、職員を含め11名でした。

新型コロナウイルス蔓延のため中止していましたが、4年ぶりに開催することができました。串を使ってひっくり返しながらかわいいまん丸なたこ焼きを作れる方が多く、ソースの種類も豊富に用意していたので「次はこれにしよう」「こっちも美味しかったよ」等、わいわい盛り上がりながら皆で美味しく食べることができました。

たくさん用意していたので余ったら持ち帰り用に予定でしたが、全部食べ切っちゃいました。

これからも楽しい企画を用意しますので、ぜひ皆さんの参加をお待ちしております。

(記：秋田)



障害者差別解消に向けて思い描く未来

日野市福祉教育ハートフルプロジェクト特別講演会「みんなが幸せに生きるまち～日野からはじまる共生社会の”ひのバージョン”～」において、日野市障害者差別解消推進条例検討策定委員の委員長として登壇し、障害者差別解消に向けた未来について講演いたしました。以下、その内容を報告いたします。

社会の中で障害者差別が生じる問題は、今なお根深く残っています。その一因として、無意識の偏見が挙げられます。私たちが日常的に持つ無意識の偏見が、障害者に対する不当な扱いや機会の制限を招いています。この問題に向き合うためには、まずは自らの意識を向上させ、他者を尊重し、多様性を認めることが不可欠です。無意識の偏見に気づき、それを克服する努力が必要です。

また、障害者差別解消の鍵として示されるのが、インクルーシブ教育です。これは、すべての生徒が多様性を受け入れ、お互いを尊重しながら学び合う教育システムです。インクルーシブ教育を通じて、障害のある生徒も含めたすべての生徒が平等な機会を得ることができるようになります。

教育現場におけるインクルーシブ教育の実現には、バリアフリー環境の整備や個別支

援の提供、意識の改革が欠かせません。障害のある生徒がスムーズに学習に参加できる環境を整えることはもちろんのこと、教職員や生徒に対する教育を通じて、障害者に対する理解を深める必要があります。

さらに、障害者差別解消には社会全体の意識改革が必要です。障害者に対する偏見や差別をなくすためには、個人だけでなく、行政や教育機関、企業など社会全体の取り組みが求められます。そのためには、個人が自らの役割を果たし、多様性を尊重しながら共生社会の実現に向けて協力することが不可欠です。

今回の特別講演会ではハートフルプロジェクトの授業を受けた日野市立第7小学校の4年生約40名もこの場に登壇し、授業を受けて気づいたことや感想を自分たちの言葉で発表しました。彼らの発表からは、障害者差別解消の重要性を理解し、共生社会を築くための取り組みへの意欲が感じられました。これからも、地域社会全体で障害者差別解消に取り組み、共生社会の実現に向けて力を合わせていくことが重要です。幸せな社会を築くためには、誰もが平等な権利と機会を得ることができるよう進めていきましょう。

(記：藤田)

ひのしりつみさわちゅうがっこう 福祉体験講座：車椅子と共に歩む日々



2024年3月21日、日野市立三沢中学校で福祉体験講座の講演を行いました。中学1年生を対象に、車椅子を使った日常生活や日々の活動についてお話しし、質疑応答や実際に車椅子の体験も行いました。講演では、車椅子の操作方法や日常生活での苦勞についての質問が多く、皆さんの興味と関心が非常に高かったです。特に印象的だったのは、「車椅子で生活をしていて一番つらいことは？」という質問でした。この質問に対して、私は身体障害者として慣れていない新しい環境では何もできなくなってしまうこと、また、皮膚の感覚がないことによる生活のし難さや、排泄障害による悩みなど、これまでの苦勞や困難について率直にお話ししました。

講演後には、たくさんの質問が寄せられました。中には具体的な車椅子の値段に関する質問もありましたが、特に興味深かったのは、「街にどんな工夫があると嬉しいですか？」という質問でした。このような質問に対して、

私は車椅子ユーザーとしての生活をより快適にするための工夫やバリアフリーの重要性、また、それが障害者に限らない誰にとっても生活しやすいものであるということを伝えました。

その後、グループに分かれた生徒の皆さんに実際に車椅子に乗ってもらい、走行体験をしていただきました。初めての経験のようでしたが、車椅子の操作や移動時の注意点を体験しながら学ぶことで、皆さんが身近な環境で車椅子ユーザーに対する理解を深めることができましたし、何よりも熱心に取り組んでくれたことにうれしく思います。体験後には、「車椅子の操作が思ったよりも難しかった」という声や、「学校の手洗い場はどうやって使うのか」といった、自分で体験したことで気づいた感想も聞かれました。

福祉体験講座を通じて、生徒さんたちが車椅子ユーザーの日常生活や障害特性について理解を深めるとともに、バリアフリーの重要性や社会的な配慮の必要性について考える機会となりました。今回は中学生の皆さんに対してお話しさせていただきましたが、誰もが車椅子ユーザーを含む多様な人々との生活を意識し、社会全体が誰にとってもより良い環境になるよう、これからも伝え続けなければならないと私自身も感じることができました。

(記：藤田)

わたしたちのあゆみ

《10月》

- ふつか 2日 日野市障害者計画策定委員会
 - よつか 4日 ミニ交流会
 - むいか 6日 ピアカン長期第6回 ※1
 - 9/1~11/24 毎週金曜日全12回
 - なのか 7日 日野市民でつくる防災・減災シンポ
 - ジウム ぶんかかい ぼうさいい だぼたかい ぎ だいさくせん
13日 都ピアサポート検討委員会 ※2
 - 19日 日障連 都議市議との懇談会 ※7
 - はつか 20日 UDタクシー乗車運動
 - 21日 日野市総合防災訓練
 - 24日 日野市障害者週間実行委員会
 - 29日 ひの社会教育センター運営委員会
 - 30日 都ピアサポート専門研修 ※3
 - 31日 精神サポートグループ
- だい かいしょうがいしゃ さべつかいしょう し えん ち いききょう ぎ かい
 第2回障害者差別解消支援地域協議会

《11月》

- みつか 3日 市政施行60周年記念式典
- むいか 6日 日野市障害者計画策定委員会
- なのか 7日 日野市UDまちづくり推進地域協議会
- ようか 8日 都ピアサポート専門研修 ※3
- 12日 日障連運営会議 ※7
- 13日 日障連 イオン見学会 ※7
- 都ピアサポート専門研修 ※3
- 15日 立川療護園苦情解決委員会
- 16日 相談支援部会
- はつか 20日 当事者勉強会
- 21日 日野市障害者週間実行委員会
- 24日 八王子連絡会研修会講師

《12月》

- ついたち 1日 JICA課題別研修
- みつか 3日 障害者週間イベント
- 13日 高次脳ピアサポーター学習会講師 ※4
- 16日 日障連イベント 障害者の自立と人権 ※7
- 19日 第3回東京都相談支援従業者研修
検討会
- 19~21日 JIL全国セミナー
- 20日 幹学習会
- 22日 東京都都市調整局意見交換会
- 25日 幹理事会
- ヒューマンライブラリー聞き取り
- 28日 ピアサポート指導者養成研修検討委員
会 ※5

《2024年1月》

- 5日 餅つき
- 都ピアサポート検討委員会
- とおか 10日 都ピアサポート専門研修
- 11日 相談支援部会
- 17日 立川療護園苦情解決委員会
- 22日 当事者勉強会
- 24日 京王線多摩動物公園駅説明会
- 26日 まちづくり人プロジェクト
- 29日 日野市地域福祉活動計画推進会議
- 30日 精神サポートグループ

《2月》

- ついたち 1日 ダスキン研修 (ピアカウンセリング)
- みつか 3日 ヒューマンライブラリーイベント
- いつか 5日 日野市障害者計画策定委員会

- | | |
|--|---|
| <p>8日 日野市地域公共交通会議
 カンボジア・プノンペンCIL報告会</p> <p>10日 知的利用者交流会 (たこ焼き)</p> <p>13日 日野市UDまちづくり推進協議会</p> <p>18日 日障連 運営委員会 ※7</p> <p>19日 地域自立支援協議会</p> <p>26日 第4回東京都相談支援従業者研修検
 討会</p> <p>27日 都ピアサポートフォローアップ研修 ※6</p> <p>29日 精神サポートグループ</p> <p>《3月》</p> <p>4日 都ピアサポートフォローアップ研修 ※6</p> <p>7日 障害者週間実行委員会</p> <p>8日 日障連 日野市福祉課との意見交換会
 ※7</p> <p>9日 福祉教育ハートフルプロジェクト講演会</p> <p>14日 相談支援部会</p> | <p>18日 都ピアサポート検討委員会 ※2
 TIL学習会</p> <p>19日 立川療護園苦情解決委員会</p> <p>21日 三沢中学校福祉体験講座</p> <p>25日 当事者勉強会</p> <p>26日 精神サポートグループ</p> <p>27日 幹理事会</p> <p>※1 ピアカウンセリング長期講座</p> <p>※2 東京都障害者ピアサポート研修カリキュラ
 ム検討委員会</p> <p>※3 東京都障害者ピアサポート研修専門研修</p> <p>※4 高次脳機能障害者のピアサポーター養成のた
 めの学習会講師</p> <p>※5 障害者ピアサポート研修事業に係る指導者
 養成研修事業検討委員会</p> <p>※6 東京都障害者ピアサポート研修フォロー
 アップ研修</p> <p>※7 日野市障害者関係団体連絡協議会</p> |
|--|---|

2023年10月から入職しました西村荷未と言います。
 精神看護師を目指していましたが、一対一で関われる訪問介助に
 魅力を感じて方向転換し、サポート日野で働かせていただける
 こととなりました。
 出身は北海道ですが小学生の時に日野市に引っ越して来たので
 日野市在住歴15年のひのっ子です！
 これから自立生活としての介助を学ぶため、色々な先輩方にお世話になると思いますが精一
 杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。

